# 歩み出した首都大学東京のＦＤ活動

基礎教育センター長

上野淳

首都大学東京が開学し，ＦＤ活動も開始された．ＦＤは，大学としての組織的な教育の改善・改革活動である．大学としてのアカウンタビリティーの上で，そして適切な自己点検・評価のためにも，且つ，やがて来るべき外部評価のためにも，遅滞や停滞は決して許されないと認識する．

とはいえ，現在のところ暗中模索状態ではある．今までの都立大学をはじめとする各大学に本格的なＦＤ活動の経験がなく，又，切迫感や危機感も希薄な状態でスタートしなければならないところに，その困難さがある．

しかし，この半年あまりのＦＤ委員会の活動により，少なくとも次のような成果を挙げつつある．

［定例的活動］

(1)　全学組織としての FD 委員会：月例開催

(2)　FD 講演会，セミナー：FD 先進校の講師を招聘しての学習・情宣活動、授業担当者の実践報告など

(3)　FD レポートの創刊：全学への発信

(4)　FD 委員会の HP 公開

［学生による授業評価］

(1)　基礎教育全般に関するアンケート調査（前期）

(2)　都市教養プログラム科目に関するアンケート調査（前期）

［学会活動等］

(1)　大学教育学会・大会への参加　（基礎教育センター長，教務係長）

(2)　大学教育学会・課題研究集会への参加（基礎教育センター長，FD 委員３名，教務課長等）

この中でも，前期終了時に，首都大学東京１期生に対する基礎教育全般に関するアンケート調査を行い得たこと，そして，本学の教養教育の基幹的な仕組みとしての都市教養プログラム各科目に関する学生・教員のアンケート調査を行い得たこと，の２点は特筆できる．これには，舛本ＦＤ委員会委員長代理をはじめとするＦＤ委員会各メンバー，教務委員会，基礎教育部会，教務課スタッフの精力的なご尽力があった．深甚なる謝意を表する次第である．

いうまでもなくＦＤ調査は，調査自体が目的ではなく，ここで発見・指摘された問題点・課題を次のステップの授業改善に結びつけることにこそ，その意義がある．幸いにして，こうした調査による課題発見が，既に様々な努力へと展開し始めている．まがりなりにも，Plan → Do → See のサイクルが輪廻を始めているのである．

緒についたばかりとはいえ，物事の始まりには，将来に対する期待や楽しみもある．

ＦＤ委員会のメンバー諸氏と連携し，気を引き締めて前進を続けたいと念じる次第である．

平成１７年・年末